

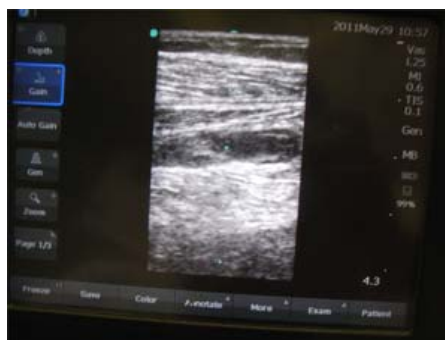
岩手県釜石市におけるエコノミークラス症候群予防検診活動

岩手医科大学付属病院災害対策本部からの要請を受け、福井大学は、5月27日から29日の3日間、岩手県釜石市内避難所におけるエコノミークラス症候群予防検診のため、同大学医学部附属病院神経内科・地域医療推進講座の山村修講師を派遣しました。

この活動には、岩手医科大学、盛岡市立病院、新潟大学など25名が参加し、釜石市内14カ所の避難所を巡回しました。活動内容は検査を希望される被災者への下肢静脈エコー（超音波検査）の実施、弾性ストッキングの配布と生活指導で、2日間の活動期間中、派遣チーム全体で約300名に下肢静脈エコーを施行しました。山村医師が関与した70名ではエコノミークラス症候群の原因となる下肢の深部静脈血栓が9名に検出され、全員に対して医療機関受診を促しました。



弾性ストッキングの配布



検出された深部静脈血栓